

熊本市

素材研究
(国内)



二の丸広場から間近に臨める傷ついた熊本城



熊本城おもてなし武将隊も各地で「復興」を訴えてきています



内外へ「熊本の元氣」を発信し続けているくまモン



熊本城のもとで地域の魅力を紹介する「桜の馬場 城彩苑」



2019年に天守閣の早期復旧を目指す 安全を確保し復旧過程も段階的に公開

昨年10月の市民祭り「みすあかり」では、復興への祈りを込めて熊本城周辺に5万本を超える蠟燭が灯されました

熊本市は昨年12月26日、「熊本城復旧基本方針」を策定しました。熊本城の復旧に向けた考え方や取り組むべき施策の方向性が定められた基本方針は、将来の礎づくりとしての熊本城復旧に継続して取り組んでいくためのもので、旅行業界にも一定の役割を果たすことが期待されています。

来年度上期からの積極的な商品化を

熊本城復旧基本方針では、「天守閣の早期復旧が震災からの復興のシンボル」と捉えられているのに加え、2019年には熊本市でラグビーW杯の試合や女子ハンドボール世界選手権が開催されるため、3年後の天守閣復旧を目指すことが謳われています。また、熊本城が年間を通じて内外から170万人超の来場者を数える重要な観光拠点であり、観光業や宿泊業をはじめとする関連産業などの地域経済にも密接に関わる観光資源であることから、万全な安全確保を前提に公開可能なエリアから復旧作業を含めて段階的な公開を行う考え方も打ち出されました。

熊本市経済観光局観光交流部観光政策課の古川嘉朗課長補佐は、「熊本観光そのものと言っても良い熊本城の観光資源としての重要性を考えると、来年度に作ら

れる復旧復興工事の行程表の中で、どの部分をどの期間に見ていただくかという情報を早めに開示していく必要がある」と指摘。「旅行業界の皆さんには、来年度早い時期からの商品化を進めていただけるようにしたい」考えです。

新たな旅行需要や旅行文化の創造へ

2011年の東日本大震災の後、被災した自治体などでは被災体験や防災・減災をテーマに「復興ツーリズム」とも言うべき新たな取り組みも進められました。

昨年4月の地震で大きな被害を受けた熊本城でも、多くの部分で立ち入り制限が行われている中、震災直後から二の丸広場や加藤神社、その周辺などから天守閣や櫓を見ることができている見学コースなどを設定。「被災した今でなければ見ることができない熊本城」を前面に打ち出しておし、戦争や公害、災害など、悲しみの記憶をたどる「ダークツーリズム」にも連なるコンセプトとして注目を集めてきています。

熊本城復旧基本方針は、「復旧していく熊本城の姿を学習社会教育・文化財保護啓発等の場として活用」しつつ、「観光資源としての早期再生」を図る考えも強調。従来とは異なるアプローチから新しい旅行需要や旅行文化の創造に向けて、熊本城を九州観光復興の切り札として十二分に活かせるかどうか、旅行業界もその力量が問われることになりそうです。